

全小家研会報



令和6年度2号 No.166
全国小学校家庭科教育研究会

令和7年2月1日発行 発行人 高野 正之
編集人 酒井 由江
発行所 東京都練馬区春日町1-30-11 (〒179-0074)
練馬区立練馬東小学校内 ☎03-3990-1094

も く じ

- ・全国小学校家庭科教育研究会会長挨拶…………… 1
- ・令和6年度第2回常任理事会報告…………… 2
- ・大会宣言…………… 2
- ・第61回全国大会三重大会報告・大会要項…………… 3
- ・三重の研究…………… 4
- ・三重大会参加者の声…………… 6
- ・公開授業…………… 7
- ・三重大会指導講評…………… 11
- ・各地区研究だより…………… 12
- ・シリーズ「授業」…………… 14
- ・令和7年度全国大会徳島大会案内…………… 16
- ・令和6年度年会費納入状況…………… 16



ともに生きる生活者の育成 をめざして

全国小学校家庭科教育研究会

会長 高野 正之

(練馬区立練馬東小学校 校長)

第61回小学校家庭科教育研究会全国大会三重大会の開催にあたりましては、開催地の三重県をはじめ、東海・北陸地区の皆様大変お世話になりました。ご参会いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

三重大会の研究主題「ともに生きる生活者の育成をめざして」には、子供たちが自らの生活をより豊かにし、周囲の人々と力を合わせ、社会に貢献するための実践的な能力を育成していく願いが込められています。

会場校の亀山市立亀山西小学校の子供たちが、生活をよりよくしようと真剣に考え、意見を交流する姿に、研究の成果を感じました。「どの教員も即実践できる家庭科の授業づくり」を目指し、他教科にもすぐに生かせる工夫が数多く見られました。

子供たちが意欲をもち、「やってみたい」「できそうだ」と思える学習課題を研究することは、教員にとってのやりがいにもつながっていくと感じました。

ある町の教育長が、新聞のインタビューで、次のように答えていました。

「自分たちの強みと弱みをきちんと把握することです。」

『あの人だからできる』『あの自治体だからできる』と、できない理由を探してしまいがちですが、子供を中心に考えたときにそれでいいのでしょうか。

できない理由ではなく、困難の打開方法を考えるべきではないでしょうか。」

できない理由を並べるのではなく、できるようにするために何ができるのか、大人の都合ではなく、子供たちのために何ができるのかを考えていく必要があると思います。

その意味において、少ない会員数で全国大会を開催してくださった三重県、経験の少ない教員集団で家庭科を研究してくださった亀山西小学校の実践の意義は大きいと感じます。たくさん学びを実感できる全国大会を、今後も続けていきたいと決意を新たにしました。

全国の会員の皆様と共に家庭科教育の更なる向上を目指し、豊かな心をもった子供たちの未来を拓くために尽力してまいります。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

お知らせとお願い

全国小学校家庭科教育研究会HP
サーバーID : zenkokukatei
サーバーパスワード : Zenshoka2021

第65回理事総会

令和7年5月16日(金) 15時(受付14:30~)
国立オリンピック記念青少年総合センター

令和6年度 常任理事会（三重大会）報告

日時 令和6年11月21日（木）15：00～
会場 亀山市文化会館 会議室
（司会 松橋庶務部長）

- 1 開会の言葉
- 2 会長挨拶 （高野正之会長）
- 3 開催地会長挨拶 （長崎雅子副会長）
- 4 来賓挨拶（録画映像）

文部科学省初等中等教育局
教育課程課教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究
センター
研究開発部 教育課程調査官
熊谷 有紀子 様

- 5 議事 （議長：副会長）
 - ① 大会宣言文（案）の審議
 - ② 各部報告 （庶務・調査研究・広報
研究紀要・渉外・会計）

- 6 全国大会について
 - ① 徳島大会（令和7年度）
 - ② 沖縄大会（令和8年度）
- 7 ブロック大会について （参加県理事）
 - ① 令和6年度
 - ② 令和7年度
 - ③ 令和8年度
- 8 閉会の言葉



大会宣言

未来を担う子供たちには、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築など、社会の急激な変化に主体的に対応し、生活をよりよくしようとする工夫する資質・能力を育成することが求められている。

しかし、家庭生活の多様化や消費生活の変化など、子供たちを取り巻く環境には様々な問題が指摘されている。そのため、家庭生活を大切にする心情を育み、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を養う家庭科教育の一層の充実が期待されている。家庭科教育の果たす役割の重要性を自覚し、全国の教師がこころ豊かに実践力を育み、未来を拓く家庭科教育、研究主題「この豊かな心と実践力をめざして」のもと、研究と協議を重ねた。この研究成果を生かし、家庭科教育をさらに充実・発展させていくために、第六十一回 全国小学校家庭科教育研究会 全国大会 三重大会の名において、次のことを高らかに宣言する。

一、生きる力を育む家庭科教育の一層の充実・発展のために、家庭生活や自己を見つめ、かけがえない家族や地域の人々の育成に努める。

二、社会の要請に応えるために、小・中・高等学校における家庭科教育の系統性を重視し、家族・家庭生活に関する教育の充実、食育の推進、持続可能な社会の構築に向けて、自立した消費者の育成などに努める。

三、衣食住などの生活における自立の基礎を培うために、家庭・地域との連携を一層深め、日本の生活文化の大切さに気付き、家庭生活をよりよくしようとする工夫する実践的な態度の育成などに努める。

四、家庭科教育の充実・発展のために、教育課程の編成・実施、教材の開発、教員の資質向上に向けた研修、施設・設備の充実など、諸条件の整備に努める。

令和六年十一月二十二日
第六十一回 全国小学校家庭科教育研究会 全国大会 三重大会

第61回全国小学校家庭科教育研究会全国大会 三重大会

三重大会を終えて

全国小学校家庭科教育研究会全国大会
三重大会実行委員長
三重県小学校家庭科教育研究会会長
長崎 雅子

三重県において、「第61回全国小学校家庭科教育研究会全国大会三重大会」並びに「第10回東海・北陸地区小学校家庭科教育研究大会三重大会」を開催できましたことに感謝し、開催にあたりご理解、ご協力を賜った全国の皆様に御礼申し上げます。

三重大会では、大会主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」を受け、自らの目標や願いをもち、よりよい生活を工夫し創造しようとする主体的に実践していく子どもを育てようと、研究主題を「ともに生きる生活者の育成をめざして」といたしました。「ともに生きる」とは、価値観の違いや文化の多様化の中で、相互尊重しながら学び合い、自分なりの納得解をもつとともに、学校・仲間・家族・地域・環境などに適応していける姿を目指しました。また「生活者」とは、自分の生活・暮らしをよりよくするために、問いをもち、解決し、発展させたいと願いをもって生き抜く子どもの育成を目指しました。

これからの子どもたちには、変化の大きな時代を生き抜くために、未知の課題にも積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力が必要です。そのためには、家庭科の学習で、実践的・体験的な活動を通し、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、技能を身に付けるとともに、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、学んだことを自分の生活に置きかえて深化させていく授業デザインの研究が大切です。

三重県小学校家庭科教育研究会では、亀山西小学校における家庭科を中心にすえた全校研修の実践・成果を発信したいと願いました。地域の特性を活かす授業、課題に対する最適な方法を探り出す実践も紹介でき、多くのご示唆をいただきました。また、全国6地区の実践発表を通し、多くのことを学ばせていただきました。

本大会開催に際し、ご多用の中丁寧にご指導いただきました文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 熊谷有紀子様、全国小学校家庭科教育研究会会長 高野正之様をはじめ多大なるお力添えをいただいた皆様方に心より感謝を申し上げますとともに、全国小学校家庭科教育研究会のますますのご発展と次期開催徳島大会のご盛會を祈念いたし、結びといたします。

大会要項

1 大会主題	「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」		
2 研究主題	「ともに生きる生活者の育成をめざして」		
3 主催	全国小学校家庭科教育研究会 東海・北陸地区小学校家庭科教育研究会 三重県小学校家庭科教育研究会		
4 後援	文部科学省・全国連合小学校長会・三重県教育委員会・三重県小中学校長会 亀山市教育委員会・四日市市教育委員会・桑名市教育委員会・津市教育委員会 鈴鹿市教育委員会・松阪市教育委員会・伊勢市教育委員会・亀山市小中校長会		
5 期日	令和6年11月22日(金)		
	9:00	9:30	12:00
	13:00		16:30
	受付	公開授業・授業録画放映 会場校全体会 協議・指導助言	昼食・移動
			全体会 開会行事・全国調査報告・地区発表 全体指導・閉会行事
6 会場	授業公開 全体会場	亀山市立亀山西小学校 亀山市文化会館	亀山市本丸町585番地
7 全体指導	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官 熊谷 有紀子様		
8 参加費	5,000円(資料参加費 3,500円)		

三重県の研究

大会主題

豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

研究主題（三重大会）

ともに生きる生活者の育成をめざして

仲間と協力、試行錯誤しながら知識及び技能を身に付ける子ども

仲間との対話や新たに得た視点・考え方などから日常生活の問題を見いだして課題を設定し、身に付けた知識及び技能を活用したり応用したりしながら協働的に解決を図る子ども

持続可能な社会の構築に主体的に関わり、自分の生活の事象と重ね合わせて身に付けた知識及び技能の活用を考え、自分の生活を豊かにしようと工夫したり実践したりしようとする子ども

育てたい子どもの姿

- (1) 仲間と協力、試行錯誤しながら知識及び技能を身に付ける子ども。
- (2) 仲間との対話や新たに得た視点・考え方などから日常生活の問題を見いだして課題を設定し、身に付けた知識及び技能を活用したり応用したりしながら協働的に解決を図る子ども。
- (3) 持続可能な社会の構築に主体的に関わり、自分の生活の事象と重ね合わせて身に付けた知識及び技能の活用を考え、自分の生活を豊かにしようと工夫したり実践したりしようとする子ども。

【授業を通してめざしていきたい「三重」の子どもの状態】

㊦ えーっ！ と驚き 【感性】

授業を通して触れる、今まで知らなかったことや気づいていなかったこと、自分とは違う生活や見方・考え方に驚き、これまでの価値観がゆさぶられている状態。

㊧ え～ と考え 【思考】

家庭科の見方・考え方を働かせて、「もっと良い方法はないか」「取り入れたい方法はないか」「何がよりよい方法なのか」と、自分の生活と重ね合わせて、課題に対する解決方法を深く考えている状態。

㊨ とともに学んで 【協力・対話】

教科書だけではなく、仲間や家族、地域の人々、専門家などからも学び、お互いの学びからよりよい解決方法を考え合い、自分の生活を語り合う中で、様々な気づきや新たな視点を得る状態。

㊩ こころみて 【実践】

課題解決に向けて、実習や実験等を重ねながら、よりよい解決方法を考えて、家庭で実践し、その結果からさらにチャレンジしたり、改善を加えたり、アレンジしたり、回数を重ねてトライしたりして、自分なりの解決方法にたどりついていく状態。

㊪ みらいを創る 【創造】

学びを振り返る中で、お互いの成果を喜び合ったり、上手くいかなかったときには知恵を出し合ったり、お互いの生活をよりよくしていこうとする状態。そして、「自分だったら」「次の機会(チャンス)があったら」「よりよい生活にするなら」どうするかという視点で、身に付けた知識や技能を活用しながら、変化していく社会の課題や、環境に適応しようと進化を続ける状態。

㊦ えんじょい enjoy！ 三重の子どもたち 【満足】

学んだことを活かし「家族の役に立てた」「無駄を省けた」など「生活がよりよくなった」という達成感や満足感を味わいながら、生活を豊かにしようと実践を繰り返していくことを楽しみ、満足している状態。

三重県キャッチフレーズ：「ええとこ 三重」

視点1 子どもの系統的な学びを支える指導計画（カリキュラムマネジメント）

(1) 小学生・高校生のアンケートの分析から

- ① 全国小学校家庭科教育研究会の全国アンケート結果と、三重県のアンケート結果を比べたり、三重県内のアンケート結果と亀山西小学校との結果を比べたりする。
- ② 県内の高校のアンケートを北勢地区・中勢地区・南勢地区に分けて分析し、地域別の実態を把握し、傾向や特性がないかを分析する。（例：北勢は商業地に近いことから消費生活について興味・関心がある。南勢地域は環境や地場産品についてなどの生活に直結したものに関心が高い）
- ③ 高校生のアンケートを分析することで、小学校で学んだことがどの程度定着しているか、成長とともにどのように意識が変化しているのかを把握する。そして、小学校でどのように指導計画を立てれば「ともに生きる生活者の育成」ができるのかを考察し、「何を学ばせるのか」を検証する。

(2) 地域性を取り入れた題材配列と、他教科等との関連

学校教育目標と照らし合ったり、ICT技術を活用したりしながら、地域・人材・素材などを学校全体で共有し、その学校ならではの授業展開を共有する。また、教科等横断的な学習を推進する。（例：生活科の町探検や家の人の仕事などの聞き取りから、港に近い小学校では、地域の漁協とコラボして漁港の見学や調べ学習をする。社会科の「地場産業について」、理科「魚の成長」、総合や特活ではSDGsの視点から、海の環境を考え、できることを考える等）「ともに生きる生活者の育成」に有効な地域教材の発掘とカリキュラム化を進める。

視点2 個別最適な学びの実現に向けた授業改善

(1) 社会の変化を受け止め、感性を働かせて学べる課題設定

ICTを最大限に活用しながら、多様な子どもたちを取り残すことなく育成し、子どもたちの多様な個性を最大限に活かすことができるよう、情報を収集し、利用させる。自分が調べたことや、集めた資料をまとめ、プレゼンをしたり、自分とは違う視点で同じことを調べた友だちの価値観に触れたりして、実践する際の選択肢を増やすことができる課題設定を行う。

(2) 児童の満足度と評価の工夫

振り返りの活動や、達成状況の把握を行う。関心を持続させていくことができるよう、「振り返りをして終了」とせず、様々な事象と関連付けて指導を継続させる。また、知識やスキルを使いこなすことを求める問題や課題（パフォーマンス課題）などへの取り組みや、評価方法の工夫を行う。

視点3 家庭や地域との連携・協力

(1) アフター（または with）コロナの活動

コロナ禍で、調理実習やグループ活動、見学やゲストティーチャーの招聘など、様々な制限があった。コロナとの付き合い方に慣れ、「こうやったら、できた。」「こうしたら、問題なくできた。」という提案。

(2) 家庭や地域社会との連携及び協力

クラスメイトだけではなく、異学年・他校との交流、地域の方、専門家や企業などの外部の人材の活用、出会い方の工夫をしていく。

参加者の声

第61回全国小学校家庭科教育研究会全国大会 三重大会に参加して

徳島県阿南市立津乃峰小学校 森下 稲子
(次年度開催県実行委員長)

亀山市は豊かな自然に囲まれており、とても落ち着いた気持ちで朝を迎えることができました。次年度開催地として、授業はもちろん準備や運営面まですべてを学びとる気持ちで徳島県からは十数名の事務局や会場校の教員と共に参加させていただきました。前日のレセプションでは、少ない人数で進められてきたとは思えないくらい、温かいおもてなしを受け感激しました。

亀山西小学校では、授業での教師や子どもの姿から「どの教員も即実践できる家庭科の授業づくり」や「子どもの言葉を大切にした授業づくり」を目指し、全校を挙げて授業改善されてきたことがよく分かりました。どのクラスも子どもたちが真摯に課題に向き合い、活発に発言しており、三重県キャッチフレーズ「ええとこみえ」を具現化した姿だと感じました。私自身、家庭科の魅力や楽しさを改めて実感することができました。

全体会では、文部科学省教科調査官の熊谷有紀子先生の「問題解決的な学習を充実させる」ためには、「教師の言葉ではなく子どもの言葉で考えること」や「常に課題の解決を意識して取り組めるようにする」という言葉が心に残っています。地区発表からも多くの学びや気付きがありました。

令和7年度は、徳島県徳島市において第62回となる大会を開催いたします。今回の研究会での学びを生かし、令和7年度徳島市において開催する全国大会に向けて、研究を進めてまいりたいと思います。

三重大会会長 長崎雅子様をはじめ、関係の皆様には心から感謝申し上げますとともに、三重県小学校教育研究会家庭科部会のますますのご発展を祈念いたします。

第61回全国小学校家庭科教育研究会全国大会 三重大会に参加して

沖縄県名護市立横見大北小学校 金城 保代
(令和8年度開催県会長)

豊かな自然に囲まれた亀山市。その美しい景色に心が癒されました。前日のレセプションでは、亀山市葛葉太鼓保存会の迫力ある演奏と心温まるお食事のおもてなしに感激しました。次々年度開催地として、授業や運営等を学びに沖縄県から7名で参加し各会場に分かれて参観しました。亀山西小学校の建物はお城を思わせるような魅力ある建物でどの学級の児童も生き生きと授業に取り組む、主体的に考え、発言し、協働的に学ぶ姿が見られました。また、家庭科を柱として家庭科に関わる各教科の内容と系統性が明確に示された年間指導計画等、全校体制での雰囲気素晴らしく感じられました。さらに、三重県のキャッチフレーズ「ええとこみえ」を捉えた児童の姿や魅力的な学習課題、めあての提示、学習効果を高めるICT活用が見られ、めざす児童像にそまっており、研究の成果が見られました。

全体会では、文部科学省教科調査官の熊谷有紀子先生の「家庭科って楽しい」「子どもたちのために授業改善に取り組む教師の一人」という言葉が印象に残っております。「児童にとって楽しい授業」「授業改善」に向け本会員も努力していきたいと考えております。また、地区発表からも多くの学びがあり参考になりました。

令和8年度は、沖縄県において第63回となる大会を開催いたします。三重大会の研究成果を受け、沖縄県のよさや強みを活かす研究・授業を発信できればと思っております。

三重県大会会長 長崎雅子様をはじめ、関係者の皆様には心から感謝申し上げますとともに、三重県小学校教育研究会家庭科部会のますますのご発展を祈念いたします。

「着方の工夫で快適に」(全7時間)

第3時 第5学年3組 指導者：原田 良亮

第4時 第5学年1組 指導者：黒川 晶太

「生活を支える物やお金」(全5時間)

第4時 第5学年2組 指導者：森 明都沙

1 授業の概要

「着方の工夫で快適に」

温かく快適な着方の意義に気付き、生活を豊かにする態度、健康・快適だけでなく、環境にも配慮しようとする態度を育むことをめざした授業である。

5-3 保温と空気の層の関連を確かめるため、寒冷地であるアラスカで生活する方(外部講師)から遠隔会議システムで話を聞き、保温実験を行った。極寒地で生活する外部講師の話聞くことで、実験で得られた知識が極寒地でも通用するものであると確かめることができた。さら



に、その後の実験から、重ね着をすることで空気の層ができ、暖かさを保つことができることに気づくことができた。

5-1 児童が積極的に活動し、地域への愛着、誇りにもつなげていくために、実際の地域の大きな行事に行き、そこで行われる地元のラグビーチームの体験にも参加するというパフォーマンス課題を設定した。ここまでの学習で理解してきた季節に応じた着方をもとに、この課題に取り組むことで、生活場面を想定した快適な着方の工夫について考えることができた。

「生活を支える物やお金」

5-2 目的に合った買物の仕方や環境を大切に生活する工夫する消費者の素地を育てることをめざした。授業では、日々の生活では支出が多いことに気づいたり、買物を失敗した経験を話し合ったりする中で、計画的に買物をすることや効率的に支出する必要性について考えることができた。また、売買契約の基礎を学び、擬似買物体験の中で友だちと話し合い、目的に合った買物をするための視点を広げることができた。

2 指導講評

本日の公開授業を通して、亀山西小学校の国際色の豊かさが活かされていた。

校区、生活圈、家族、学校の特性などそれぞれの地域がもつ特性を活かした題材設計が大切である。

「地域の人に感謝の気持ちを伝えよう」

(全7時間)

第2時 第6学年2組 指導者：藤尾いずみ

第3時 第6学年1組 指導者：藪内 一希

第7時 第6学年3組 指導者：後藤 拓真

1 授業の概要

児童全員に共通する学校生活に関わる地域の人々を取り上げ、多くの人に支えられていることに気付くとともに、その思いを知り、自分も地域の一員として何ができるかを考え、日常生活における行動の変容につなげることをめざした授業である。

6-2 地域の人にたくさん関わってもらっているが、自分たちからの関わりが少ないという現状に気づき、自分たちと関わっている地域の方のインタビュー動画を視聴し、思いを知った。その関わりを見つめ直す中で「感謝の気持ちを伝えたい」という願いをもち、「地域の人との関わりを深めよう」という課題を設定することができた。

6-1 前時に設定した課題を解決するために「感謝の会」を開き、そこでどのような活動をするかを考えた。その中で、条件に合致し、かつ「地域の人との関係をより深めること」を意識しながら話し合うことを通して具体的な解決方法を考えることができた。

6-3 「感謝の会」を通して、地域の人々との関わりを深めることができたかについて振り返った。当日の自分の姿を写した動画を視聴することで、自分の関わりを客観的に捉え、個人のめあてに対する振り返りを行うことができた。また、地域の人からのアンケートを分析し、関係が深まったことを実感することができた。これまでの活動を通して、関わり続けることの必要性に気づき、自分が今後の生活においてどのように地域と関わっていくかや自分に何ができるのかについても考えることができた。



2 指導講評

授業の様子から、児童のよい表情が見え、ありのままを表現することができていたのは、教師の日々の取り組みの結果である。

児童が学習した後の出口の姿を想像し、現実と理想のギャップを埋めるための課題を明確化し、魅力的な学習課題の設定をすることが大切である。

亀山市立川崎小学校

第5学年1組 指導者：篠谷 晴香
「川崎小学校における家庭科の取り組み
—アップサイクルコースターを作ろう—」

1 授業の概要

本題材では、裁縫の良さを考え、目的意識を持たせようと、玉結び・玉どめや基本的な縫い方を習得させた。題材のゴールとして、地域の方から寄付していただいたへこ帯や染物、布の端切れなどでアップサイクルコースターを作った。最終的には、コースターを地域の方との交流の場である文化祭で販売したり、地域の方へお茶を入れる際にコースターとして実際に利用したりした。



基本的な縫い方を習得する際、実際にやってみて成功したことや失敗したことをふり返り、上手に縫えるコツを習得し、縫い方による違いを比べることで場面に応じて縫い方を使い分けようとするふり返りがあった。

コースターづくりでは、コースターの大きさを三種類用意し、地域の方から寄付していただいた布、大きさ、形、縫い方を子どもたちが選択できるようにした。残り時間を見て、縫い方を臨機応変に変える姿も見られた。

2 指導講評

- 習得した縫い方をコースター製作で試してみる機会をもったり、地域へアピールする場面を見据えて活動を行ったりしたこと、子どもたちのモチベーションを持続させることができた。
- 技能の定着を図り、家庭での取り組みにつなげていくことが大切である。宿題で練習させたり、おうちのものを用いて裁縫をさせたりする機会を設けることが必要である。



三重大学教育学部附属小学校

令和5年度第6学年 授業者：堀切 紋子
「プログラミング思考で推しの
—食分調理にチャレンジ—」

1 授業の概要

プログラミング的思考で一食分の調理計画を立てるために、2回の調理実習を行うというのがこの授業の特色である。

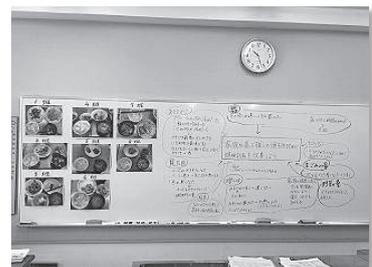
1回目の調理実習に向けてプログラミング的思考を使いながら、複数の調理が同時においしくできあがる調理計画をグループで立てることで、様々な見方・考え方を働かせて調理計画を立てることができた。そして、1回目の調理実習の中で、温かく食べたい料理が冷めてしまったり、思ったよりチーズが溶け出てしまったりした点をどうしたら良いか考え、プログラミング的思考で調理過程を組み直すことで改善することができた。

また、2回目の調理実習をすることで、プログラミング的思考で考えた改善策がうまくいくかを確かめることができ、プログラミング的思考を使って考えるよさを実感できたり、これからも使っていくことが大切であるということが分かったりすることができた。



2 指導講評

- プログラミング的思考は、家庭科だけでなく他教科においても使う思考であるため、家庭科でつけた力を子どもたちの生活における様々な場面で活用させていくことができる。
- 学校で行った調理計画の作成や調理実習の経験を、どのように家庭生活の中での実践につなげていくかを考えていくことが大切である。学校での家庭科の授業が、家庭生活での実践を見据えた題材計画になるよう、2年間の題材計画をさらに見直す必要がある。



全体協議・指導助言

1 校長あいさつ

2 三重県の家庭科教育 研究概要

「ともに生きる生活者の育成をめざして」を研究の主題とした。また、研究の視点を

- ① 子どもの系統的な学びを支える指導計画
- ② 個別最適な学びの実現に向けた授業改善
- ③ 家庭や地域との連携・協力

以上の3点とし、研究を進めた。

3 亀山市立亀山西小学校 研究概要

研究主題にせまれるよう、教員が即実践できる授業づくりと全学年各教科との関連を明確にした年間指導計画の作成等を中心に研究を進めた。

4 研究協議

5 亀山市教育委員会指導主事あいさつ

6 指導講評

◇三重大学教育学部 家政教育講座

准教授 村田 晋太郎 様

亀山西小学校と令和4年度より、協働的に小学校家庭科の授業研究を行ってきた。「家庭科の特性、魅力とは?」「子どもが前のめりになる家庭科授業設計論」について校内研修を実施し、家庭科の授業研究の出発点を校内で共有した。先生方は、協働的に授業開発をし、授業改善のための対話を2年間重ねてきた。

公開授業を振り返り、次の3点にまとめる。

- ① 小学校家庭科で扱われる「地域」とは何かについて考えて欲しい。題材によって、地域は「家庭とその周辺」なのか、「校区」なのか、児童の「生活圏」なのか、大きく

異なる。そのため、地域とはどこからどこまでを指すとは言い難い。題材で迫っていきたい生活課題と対応した地域があると考ええる。

- ② 理解していること・できること（習得）をどう使うか（活用）、つまりは題材のヤマ場をどのように設定するかが重要である。児童に家庭科の授業を通して身につけて欲しい姿、迫って欲しい家庭科の本質を想像して学習課題を設定していきたい。

魅力的な学習課題の設定

- 理解していること・できること（習得）をどう使うか（活用）
- 児童の生活でどのようなことができるようになってほしいのか、その出口の姿をイメージする
- 題材のヤマ場に家庭科の本質に迫る学習課題を設定する
 - 5-1,5-3：亀山市に行く服装を考える
 - 5-2：多面的に筆箱の購入を考える
 - 6年：地域の方に感謝を伝える会
 - 川崎小：アップサイクルコースターづくり
 - 附属小：家族に推しの一食を調理する



- ③ 今後の全小家研では、児童の現在、未来の家庭生活をイメージしながら「いつまでも新鮮な題材」の開発を期待したい。今の忙しい家庭生活をどうやりくりするかも重要であるが、家庭生活が児童にとってより魅力的なものになるための工夫も必要であると考えている。

まとめ 今後の各地区での家庭科研究への期待

- 急激な社会や家庭生活の変化を捉える教材研究
- **Ever Green**（いつまでも新鮮、色褪せない）な教材開発
 - 児童の今、未来の家庭生活をイメージしながら
 - 家庭科の「不易」と「流行」
- 中期、長期的な取り組みによる成果を検討する
 - カリキュラム開発、カリキュラム・マネジメント
 - 量的なデータ：アンケートなど
 - 質的なデータ：児童の成果物、語り、記述など



全国大会 三重大会の様子

午前 授業校の様子 (亀山西小学校)

〈受付の様子〉



〈三重県各市町の取り組み〉



前日は理事会の後、レセプションを行いました

オープニング 太鼓演奏



〈授業校全体会の様子〉



〈授業風景〉



授業放映



午後 全体会の様子 (亀山市文化会館)

〈全国調査報告 & 全国地区研究発表〉



〈熊谷調査官による全体指導〉



〈全小家研 高野会長あいさつ〉



〈三重大会 長崎会長あいさつ〉



指導講評



文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
 国立教育政策研究所
 教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
 熊谷 有紀子 先生

新しい学習指導要領
生きる力
 学びの、その先へ



第61回全国小学校家庭科教育研究会
 全国大会 三重大会

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官
 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官
 熊谷 有紀子

文部科学省

はじめに

学習指導要領のよりよい実施
 「着実な実施」を基盤とした日々の授業の質の向上

<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領を「理解している」つもり 学習指導要領の誤った解釈／拡大解釈 「大会のため」の授業 誰も行っていない 題材の開発 <p>など</p>	➔	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領を再度確認する ・育成を目指す資質・能力 ・ねらいは？ ・扱う内容は？ 日頃の授業をブラッシュアップする ・授業展開 ・発問 ・ワークシート ・評価 ・研修会への積極的な参加 <p>など</p>
---	---	---

2

学習指導要領及び解説を確認する

学習指導要領の「着実な実施」

この内容では足りない！
 私はこれが大切だと思うから、これを教えたい！

学習指導要領の目標や内容が置き去りになり、
 発展した授業内容が展開され始める

小学校で中学校の学習内容
 中学校で高等学校の学習内容
 教師の「オリジナル」な学習内容

育成すべき資質・能力は一体どこへ???

3

問題解決的な学習を充実させる

<ポイント>

- 「教師の言葉」ではなく、常に「子供の言葉」で考える
- 「目指す子供像」は題材の振り返りで子供が書く／述べる言葉
- 「振り返り」によって、「確かに解決に向かっている」と自覚できるようにする
- 設定した「課題」について、常に「課題の解決」を意識して取り組めるようにする
 - 「課題を解決するための計画」
 - 「課題を解決するための実践」
 - 「課題を解決するための評価・改善」

★教師の価値観、教師の都合が優先されていない？

4

「指導と評価の一体化」も忘れずに

クラス全員が「おおむね満足できる」状況(B)となる授業を目指す

- 学習指導要領に示されている資質・能力が身に付けば「おおむね満足できる」状況
- Bの評価規準を明確にもってから授業に臨む
- 「Cがついた」ではなく、Cになりそうな子供に対し、具体的な手立てを講じることが大切
- 何を、どのように評価するのが適切か考える

おわりに

日々の授業の質の向上(学習指導要領の「よりよい実施」)

研究の目的は何？
 →子供たちの「資質・能力の育成」のため

研究は誰のために行うもの？
 →目の前の子供たちのために行うもの

研究会が終わったら研究は終わり？
 →「研究のための研究」と考えず、目の前の子供たちの資質・能力の育成に向けた日々の授業改善を継続していくことが大切

子供たちのために、授業改善に取り組む教師でありたい

各地区研究だより

〈北海道・東北地区〉

第39回北海道・東北地区小学校家庭科教育研究大会福島大会を終えて

福島県小学校家庭科教育研究会
会長 今井 不二子

令和6年12月6日(金)、第39回北海道・東北地区小学校家庭科教育研究大会福島大会を桜と歴史と文化の城下町、福島県三春町で開催することができました。

会場となった福島県環境創造センター交流棟は、東日本大震災及び原子力発電所事故後に建設され、福島ならではの会場です。日程に施設見学も取り入れましたので、被害を受けた福島県、さらに放射線や環境問題についてのご理解いただけたことと思います。

さて、本大会は、全国小学校家庭科教育研究会研究主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」を踏まえ、「実践的な態度を育む家庭科の授業」を研究主題に掲げ、経験の異なる3名の教員より学校や地域の実態を踏まえた研究報告を行いました。各発表は、家庭・地域・社会に関心を持ち、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的に実践する子どもを育くむために、家庭科や関連教科等で実践を積んできたものでした。

最後になりますが、本大会の開催に際しまして、文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官熊谷有紀子様、福島県教育委員会様、三春町教育委員会様を始め関係機関の皆様にご心より御礼を申し上げます。



〈関東甲信越地区〉

第40回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会栃木大会を終えて

栃木県小学校教育研究会家庭科部会
会長 那花 恭子

令和6年11月29日に、第40回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会栃木大会を栃木県壬生町立壬生小学校を会場に開催いたしました。当日は、県内外から多くの先生方に御参加いただき、盛大に開催することができました。

本大会では、学習指導要領や本県児童の実態を踏まえ、「家族の一員として、自ら生活をよりよくしようと工夫し実践する子どもの育成」を研究主題といたしました。今回の研究では、児童が家族の一員として家庭や地域での生活を今よりもっとよくしたいという思いをもち続け、学ぶ必要感や実践意欲が高まるように教師が行う手立てを【仕掛け】と称し、学習過程での効果的な【仕掛け】について研究し、実践して参りました。また、研究の4つの視点「指導計画の工夫」「学習指導の工夫」「学習評価の工夫」「家庭・地域との連携」においても、児童が家族の一員として家庭生活に目を向けたり、家族の思いを感じたりできるような【仕掛け】を意図的・計画的に取り入れて研究を進めてきました。

当日は、第5学年が「食べて元気に」、第6学年が「こんだてを工夫して」の題材で公開授業を行い、各分科会では、御参加の先生方より貴重な御意見をいただきながら、熱心に協議が行われました。また、全体会では文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官の熊谷有紀子先生に「小学校家庭科における資質・能力の育成を目指して」というテーマで記念講演をいただき、家庭科教育に関する学びを深めることができました。

本大会で皆様からいただいた御意見等を参考に、成果と課題をまとめ、今後の家庭科教育の充実・発展のために、さらに研究を深めて参りたいと思います。

結びとなりましたが、本大会の開催にあたり御指導や御助言をいただきました関係各所の皆様や御参加くださいました先生方に心より感謝申し上げます。

〈近畿地区〉

第54回近畿地区小学校家庭科 教育研究大会大阪市大会を終えて

近畿小学校家庭科教育研究会
会長 上田 昌宏

第54回近畿小学校家庭科教育研究大会大阪市大会を11月8日に開催しました。ここまで大阪府で積み上げてきた家庭科教育を近畿・大阪府の各地からご参加くださった多くの先生方に見ていただくことができ、無事盛会のうちに終了することができました。これもひとえに大会にご参加いただきました皆様のご理解とご協力のお陰であると深く感謝しております。

さて、本大会では大会主題を『豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育～持続可能な社会の実現に向けて～』と設定しました。研究の視点として、まず「教員の指導力向上」のために主体的・対話的で深い学びの実現を目指した基礎的・基本的な学習指導の方法を提示。次に家庭科とつながる教科等横断的な学習活動を計画する「カリキュラム・マネジメント」。そして児童の自己評価や相互評価に活用するとともに、指導者が学習状況の把握や評価に活用する「指導と評価の一体化」の3点を掲げ、研究を進めて参りました。

当日は、大阪府立大領小学校を会場校として、8つの授業を提案させていただきました。第5学年の「食べて元気に」、第6学年の「クリーン大作戦」で、よりよい生活の実現に向け、子どもたちが生活の中から課題を見つけ、その解決に向けて仲間と協力して課題解決をする力を育む授業を提案しました。低中学年の生活科と社会科では、家庭科とつながる教科等横断的な学習を通して知識と知識をつなげ考える力や授業を提案しました。今後ご参加された皆様から頂いたご意見を参考に、大阪府の家庭科教育発展のために、研究・実践を深めていきたいと思っております。

結びに、大会開催にあたりご指導ご助言をいただきました文部科学省教科調査官 熊谷有紀子様をはじめ、ご指導いただきました多くの方々に感謝申し上げます。

〈九州地区〉

第54回九州地区小学校家庭科 教育研究大会宮崎大会を終えて

宮崎県小学校教育研究会家庭科部会
会長 花園 裕子

令和6年11月26日に、第54回九州地区小学校家庭科教育研究大会宮崎大会を宮崎市立生目台東小学校で開催いたしました。

本大会に向け、大会主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」のもと、研究主題を「豊かな心を育み、生活をよりよく工夫し、家庭生活につなげられる子どもの育成」、副主題を「日常生活の中から課題を見だし、課題を解決する家庭科を目指して」と設定し、これまでの研究を総括するとともに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行ってまいりました。子どもが日常生活の中から課題を見だして課題を設定し、その解決に向けて、様々な解決方法を考え、計画を立てて実践し、その結果を評価・改善し、さらに家庭や地域で実践するなどの一連の学習過程の中で、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、課題解決に向けて自分なりに考え、表現するなどして資質・能力を身に付ける学びを目指し研究を進めてきました。

公開授業では、第5学年の「着方の工夫で快適に」、第6学年の「こんだてを工夫して」で課題設定である第1時とまとめである最終の時間を公開いたしました。授業後の分科会では、小・中・高等学校の先生方によるグループと全体での協議が行われました。また、記念講演では文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の熊谷有紀子様から「小学校家庭科における資質・能力の向上に向けて」という演題で、実践につながる具体的な事例を交えた家庭科教育への貴重なご示唆をいただきました。参加者一同、小学校家庭科教育の在り方についての認識を深めることができました。本大会でいただきました皆様方の御意見を活かし、今後、本県の研究を更に深めていきたいと存じます。

最後になりましたが、本大会を開催するにあたり、これまでに御指導・御支援を賜りました関係各所、会場校、そして授業を提供していただきました4校をはじめ、大会に携わってくださった皆様方に厚く御礼を申し上げます。

豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 ～「ふれ愛」を大切に、「よりよい生活」を工夫する子供の姿を求めて～

滋賀県小学校教育研究部会家庭科部会
東近江市立五個荘小学校の実践事例を通して

I 研究主題設定の理由

家庭科は、生活や社会との結びつきが深く、それらに大きく影響を受ける教科である。コロナ禍が明け、日常の生活に戻る今、家庭科での児童の学びについて改めて見直す時期にあると考える。コロナ禍が私たちに示したのは、人との結びつきの必要性和重要性である。家庭や社会で築き上げられてきた生活文化は、人と触れ合うことによって伝えられていく。

このことから、家族や地域の異なる世代の人々と触れ合い（「ふれ愛」）ながら学習を進めることで、家庭生活や地域を大切にできる心情や「豊かな心」を育みたいと考える。また、実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともにそれらに係る技能の習得を図り、身に付けた資質・能力を生かして生活をよりよくしようとする「実践力」も育みたい。この「豊かな心」と「実践力」を身に付けることで、社会の変化に主体的に対応し、よりよい生活を営むために工夫する児童の育成をめざしたいと考え、本主題を設定した。

II めざす児童像

- (1) 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けている子
- (2) 日常生活の中から問題を見つけ、学んだことを活用して課題を解決していく子
- (3) 家族や地域の人々との「ふれ愛」を大切に、生活をよりよくしようとする子

III 授業実践

〈実践事例1〉第5学年

1 題材名

整理・整頓で快適に

2 題材の目標

- 住まいの整理・整頓の仕方や清掃の仕方を理解するとともに、適切にする技能を身に付ける。
- 環境に配慮した物の使い方について理解する。

- 住まいの整理・整頓の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと、快適な住まい方について、課題解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

〈実践事例2〉第6学年

1 題材名

クリーン大作戦

2 題材の目標

- 住まいの清掃の仕方、環境に配慮した物（水や洗剤）の使い方について理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- 快適に住まうために環境に配慮した住まいの清掃の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと、環境に配慮した住まいの清掃の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し実践しようとする。

3 研究の視点と内容

視点1 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける授業づくり

本県で作成している小学5年生から中学3年生までの学びを確認できる「ゆめ・ふれ愛 成長確認シート」を、児童が自分の生活を振り返り、見通しをもって基礎的・基本的な知識及び技能を習得するための手がかりとする。また、このシートから自身の成長を自覚し、「～ができるようになりたい」という「ゆめ」を持って生活する児童の育成に結び付けたい。教師は、これを児童実態の把握や授業づくりに活用する。

視点2 日常生活の中から問題を見だし、課題を解決していく授業づくり

具体的な生活の場面から課題や解決方法を見出すために、「家庭での聞き取りや調べ学習を効果的に取り入れる」や「体験活動を充実させる」、「他教科・学校行事との関連を図る」の3点を考慮した題材計画を立てる。

視点3 家庭や地域の人々と「ふれ愛」ながら、実践意欲を高める授業づくり

題材に関わる対象の人、相手を明らかにし、その人への思いを表すこと、人と関わりながら実践・体験的に学ぶことを意識した授業づくりを行い、学んだことが家庭や地域での実践につながるような題材計画を立てる。

4 研究との関わり

視点1

- ① 「ゆめ・ふれ愛 成長確認シート」の活用
両学年とも児童の実態を把握するために本シートを活用した。5年生では、整理・整頓に関わる4つの項目についての回答から、理解すべき知識及び身に付けさせたい技能を明確にする必要があることがわかった。6年生では、掃除に関わる項目への回答と実際の掃除をみて、掃除の必要性や掃除の仕方を確認する必要があることがわかった。
- ② 正しい知識の習得
「整理」と「整頓」の意味の違いなど、基礎的な理解を図り、実践・体験を行った。
- ③ 家庭科の「見方・考え方」を意識する
5年生では、整理整頓を、見た目の美しさだけではなく、「快適」「安全」の視点を意識させることで、確かな学びになるようにした。
- ④ 繰り返し実践する
5年生では、グループで整理整頓の実践を行い、そこで身に付けた知識・技能を自分の整理整頓に生かした。

視点2

- ① 実物やICT機器の効果的な活用
5年生では乱雑な道具箱の実物を提示し、6年生ではいつも掃除している校舎内を写真機能を使って確認させたことで、課題意識や学習意欲を持たせることができた。さらに汚れ調べの写真の提示により、掃除の必然性やその仕方を正しく知るという、課題の設定につながった。
- ② 気づいた工夫やよさをキーワード化
5年生の課題解決の場面では、「使いやすい」、「危なくない」などのキーワードを使ってまとめ、「健康・快適・安全」ともつなげ

て考えられるようにした。6年生では、掃除をする上で大切にしたいことを「エコ」、「スピーディ」、「ノーダメージ」という合言葉に児童がまとめ、掲示することで常にこの視点を意識して学習が進められた。



キーワード化

視点3

- ① 家庭とつなぐ
家庭で生かせることを実践発表会の内容に加えたことにより、学校で学んだことを家庭や今後の生活につなげることができた。実際、発表後のふり返しシートからは、「身近な材料だから家の掃除で酢を使ってみたい」など、家庭での実践につなげることができた。
- ② 学校行事とつなぐ
学習で共有した合言葉が学期末の大掃除にも活かされ、意欲的に大掃除に取り組めた。
- ③ 仲間と協力した実践を自分の実践につなぐ
5年生では、グループで道具箱の整理・整頓を行った。一人での学習に自信のない児童も仲間とともに試行錯誤して取り組むことができた。また、その実践を自分の身の回りの整理整頓に活かすことができた。



グループでの整理整頓

5 成果と課題

成果

- 「ゆめ ふれ愛 成長確認シート」を活用して事前に児童の実態把握をすることで、身に付けさせたい力を明確にすることができ、題材計画に基づいた授業づくりができた。
- くり返す、キーワード（合言葉）化する、見て考える（視覚化）学習活動の設定は、日常生活の中から問題を見だし課題を解決する学習過程において有効な手立てであった。

課題

- 「〇〇ができるようになりたい」という「ゆめ」をもって学習するために、今後も「ゆめ・ふれ愛 成長確認シート」を活用していきたい。また、本シートは、中学校へ引き継ぐため、知識や技能の習得についての実態把握だけでなく、生活をよりよくしようと工夫する意欲や中学校の学びへと継続ができるように活用していきたい。

令和7年度全国大会 徳島大会

家庭科教育をともに推進していきましょう。
徳島県徳島市へお越しく下さい。

第62回 全国小学校家庭科教育研究会

1 大会主題

「豊かな心と実践力を育み、
未来を拓く家庭科教育」

2 研究主題

「自らよりよい生活を創り出そうとする
子供の育成」

3 期 日 令和7年11月21日(金)

4 日程・会場 ※時間は現時点の予定です

【令和7年11月20日(木)】徳島駅周辺

15時～ 全国常任理事会

【令和7年11月21日(金)】

第1会場 徳島市立八万小学校

8:30 9:00 9:45 11:10

受付	公開授業	全体会
----	------	-----

第2会場 徳島市立佐古小学校

8:50 9:20 10:05 10:50 11:30

受付	全体会Ⅰ	公開授業	全体会Ⅱ
----	------	------	------

全体会場 あわぎんホール

11:30 13:10 16:30

昼食 移動	全体会			
	開会行事	調査報告・全国 地区研究発表	全体指導	閉会行事

5 全体指導

文部科学省初等中等教育局

教育課程課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター

研究開発部教育課程調査官

熊谷 有紀子 様

6 参加費 5,000円(予定)

7 問い合わせ先

【徳島県大会事務局】

阿南市立津乃峰小学校長 森下 稲子

〒774-0021 阿南市津乃峰町戎山129-37

TEL 0884-27-0227 FAX 0884-27-1172

E-mail morishita_inako_1@g.tokushima-ec.ed.jp

令和6年度 会費納入状況

番号	地 区	会員数	金 額
1	北海道	25	37,500
2	青森県	30	45,000
3	岩手県	10	15,000
4	宮城県	34	51,000
5	秋田県	10	15,000
6	山形県	16	24,000
7	福島県	3	4,500
8	茨城県	45	67,500
9	栃木県	33	49,500
10	群馬県	10	15,000
11	埼玉県	17	25,500
12	千葉県	91	136,500
13	神奈川県	18	27,000
	相模原市	3	4,500
	川崎市	17	25,500
14	横浜市	20	30,000
	横浜市	10	15,000
15	長野県	14	21,000
16	新潟県	9	13,500
17	東京都	97	145,500
	東京都(役員)	13	13,000
18	富山県	2	3,000
19	石川県	18	27,000
20	福井県	15	22,500
21	静岡県	13	19,500
	浜松市	6	9,000
22	愛知県	38	57,000
	名古屋	25	37,500
23	岐阜県	7	10,500
24	三重県	7	10,500
25	滋賀県	16	24,000
26	京都府	11	16,500
	京都市	13	19,500
27	大阪府	42	63,000
	大阪市	6	9,000
28	兵庫県	16	24,000
29	奈良県	5	7,500
30	和歌山県	8	12,000
31	鳥取県	7	10,500
32	島根県	5	7,500
33	岡山県	26	39,000
34	広島県	17	25,500
35	山口県	15	22,500
36	徳島県	41	61,500
37	香川県	26	39,000
38	愛媛県	20	30,000
39	高知県	5	7,500
40	福岡県	12	18,000
41	佐賀県	9	13,500
42	長崎県	20	30,000
43	大分県	10	15,000
44	熊本県	15	22,500
45	宮崎県	11	16,500
46	鹿児島県	10	15,000
47	沖縄県	8	12,000
合 計		1,030	1,538,500
会費納入予算			1,500,000円
会費納入額			1,538,500円
納入者数			1,030名
予算に対する納入率			102.5%

会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

[令和6年12月31日現在]

編集後記

広報誌第2号は、三重県亀山市でおこなわれた全国大会について特集しました。亀山城下町や東海道の宿場町として栄えた歴史と風情のある亀山市に多くの方がお集まりいただきました。亀山市の実践から多くのことを学ばせていただきました。全国大会を運営して下さった皆様、ご多用の中、原稿をお寄せくださった皆様に感謝申し上げます。(広報部長 酒井 由江)